



あやめだより

平成31年 1月号

2019年の新年に思うこと

長岡南小学校校長 勝呂 義弥

新年が明けました。今年もよろしくお願ひいたします。年末は厳しい寒波が到来しましたが、年明けは、穏やかなお正月を過ごされたことと思います。平成最後の3学期が始まりました。大きなけがや交通事故の連絡もなく、多くの子どもたちは元気に登校しています。これも保護者の皆様と地域の方々のおかげと、深く感謝いたします。

3学期始業式では、3人の代表の子どもが、新年の、3学期のめあてを発表しました。他の子どもたちも同様に、新年に立てた決意や意気込みを感じさせる、とてもよい表情をしていました。また、きちんとした姿勢で「校長先生、明けましておめでとうございませう」と新年のあいさつをした子が何人もいて、うれしくなりました。明るい新年に、更に輝きを与えるようなあいさつを受け、2019年をスタートできることを本当にうれしく思います。

さて、3学期は、それぞれの学年の締め括りをする大切な学期です。めあてと決意を持って一日一日を大切に過ごしてほしいと思います。特に6年生は、卒業という大きな舞台が待っています。悔いのない6年間にするために、仲間と支え合い、小学校最後の学びを力強く歩んでほしいと願っています。

ところで、「自分にとって自分自身は最も遠い存在である」という言葉を聞いたことがありますか？自分の顔を自分で見たことがありますか？変なことを尋ねるようですが、自分の顔は、鏡や写真で見ることができそうですが、自分の眼で自分の顔を直接見ることはできません。その意味で、自分は自分自身にとって最も身近でありながら、最も遠い存在であると言えるかもしれません。

安積得也(あずみ とくや)さんという方が、以下のような詩を書いています。

光 明

自分の中には 自分の知らない自分がある
みんなの中には みんなの知らないみんながある
みんなえらい みんな尊い みんなみんな天の秘蔵っ子



この「光明」という詩は、人間の中には、自分でさえ気づかない可能性や能力、才能がいっぱい詰まっていることを教えてくれています。しかし、自分の眼で「自分の顔」さえ見られない自分に、自分の中にある素晴らしさに気づくことは、なかなか難しいと言えます。人間には「自分の知らない自分」が存在し、生きるということはそれを発見する過程であると言えます。壁にぶつかってそれを乗り越えられず、自分には力がない、自分が嫌いだというふうに関じ、自尊心を低くする子どもがいます。思春期の子どもの一つの特徴と言えるかもしれません。一人一人の子どもは、それぞれ素晴らしいものを持っています。新しいこの一年、子どもたちには自分自身を信じて、自分の持っている才能や可能性を一つでも多く気づいてほしいと願っています。

学校としましても、子ども一人一人の大いなる可能性を信じ、教職員一同精一杯支援したいと考えております。どうぞ今年も本校教育に対しまして、ご理解・ご協力の程よろしくお願ひ申し上げます。